

データが語る深圳市の素顔④:産業構造の高度化促す「特別資金」

深圳市では世界の技術開発の動向をにらみながら、常に最先端技術の導入、事業化を進めるよう政策誘導がなされている。産業構造の高度化を目指すこの流れを**下図(深圳市の産業構造調整の流れ)**を参照しながら説明しよう。

2009年の深圳政府の計画では既存産業の成長を図りながら、一方で7つの新興産業が戦略的に育成すべき重点産業として追加され、その発展計画が発表された。発展支援のため180億元の「特別資金」が投入されることになった。

7年後の2016年計画をみると、実績ベースでGDP全体に占める既存産業比率は60%、2009年に追加された重点産業がなんと40%を占めている。7年間で新産業比率が4割に達するとは驚くほどの変貌ぶりである。重点産業分野の1つ、省エネ、環境保護分野の政策をみると、2014年には「振興発展計画」が打ち出され、以降7年間、毎年5億元を投じて、省エネ、環境保護、資源リサイクル産業やサービス業の育成に注力することになった。深圳市はこの分野の総売上高成長率を年20%以上に高める目標を掲げており、追加産業の成長はなお持続する。

2016年には、既存産業と7年前の追加産業に加え、新たに5つの重要産業が追加された。重要産業が唐突に顔を出してきた訳ではない。追加された生命健康産業、海洋産業、航空宇宙産業は既に2013年に「未来産業発展施策」として支援方針が打ち出されている。必要な革新技术をなんとか手に入れ、重要企業の育成、誘致など産業化を進めるため2014年から2020年まで毎年1億元投じる「未来産業発展支援特別資金」を設置、育成する実績を積み上げてきている。

深圳市の産業構造高度化の流れ

